

セッション2 モニタリング

05. 透析困難症に対するレーザ血流計による患者監視の試み

○岡澤 圭祐 (かづかいすけ)¹⁾、江口 圭¹⁾、村上 淳¹⁾、金子 岩和¹⁾、峰島三千男²⁾、
花房 規男³⁾、土谷 健³⁾

東京女子医科大学 臨床工学部¹⁾、臨床工学科²⁾、血液浄化療法科³⁾

【緒言・目的】

血液透析中の血圧管理としては、マンシエットによる間歇的な血圧測定が一般的である。しかし、測定が連続的ではないため、急激な血圧低下の発見が遅れる可能性もある。今回、透析開始直後に急激な血圧低下を呈する患者を経験し、レーザ血流計を用いた新しい患者監視法を試みたので報告する。

【対象】

対象は、HDF 施行中の慢性維持透析患者1名（85歳、女性、原疾患不明）で、透析開始およそ10分後に急激な血圧低下が見られる患者である。

【方法】

レーザ血流計を患者に装着し、透析療法中の耳朶血流量を連続測定した。さらに、マンシエットによる間歇的な血圧測定値と比較した。

【結果・考察】

レーザ血流計の使用により、リアルタイムな患者監視が行え、耳朶血流値と収縮期血圧値の間には、 $r=0.56$ の相関関係が認められた。また、通常的な血圧測定よりも、早期に血圧低下を検出できる可能性が示唆された。さらに、耳朶血流量のトレンド波形をもとに除水速度の調整も可能であった。

【結言】

レーザ血流計は、透析困難症などにおける患者監視モニタとして、特に有用と思われた。